

目指す学校像	○自分と共に他の人を大切に作る学校 (自他共愛)
--------	--------------------------

重点目標	1 学びの自律と個別最適化の実現に向けた情報端末の活用と授業改善の推進 2 安心・安全な学校づくりに向けた教育支援・相談体制の充実と交通安全教育の推進 3 3者の連携による交通安全教育・環境教育とポストコロナの学校運営の推進 4 ICT活用能力向上、コーチングの視点を導入した指導力向上に向けた教職員研修の充実
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価	
年 度 目 標		年 度 目 標		年 度 目 標		年 度 目 標		年 度 目 標	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会による評価	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では埼玉県平均と同じ結果となっているが、全国平均と比べると算数科でやや下回る結果である。 ○市の学習状況調査において、学習に対する関心・意欲・態度に関する質問に肯定的な回答をした児童の割合は、市平均と比べ、国語・理科で高く、社会は平均に近く、算数・GSで低い結果となっている。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、特に国語の「伝える力」「書く力」の問題形式の正答率に課題がある。 ○算数の思考力・判断力・表現力に課題が見られるので、「主体的・対話的で深い学び」のある授業を実践していくことが課題である。 ○基礎的な知識及び技能の定着に課題があり、学校で学習を振り返る、繰り返し学べる機会をつくっていく必要がある。	・学びの自律と個別最適化に向けた情報端末の活用と授業改善 ・「分かる」「できる」が実感できる学習環境の整備・授業実践	①タブレット端末を活用し、児童の学習への取組状況・つまづきを確認し、個別最適な学習ができるようにする。 ②学習状況調査の結果から、「表現力」に関する状況を分析するとともに、市教委による学力向上カウンセリング研修を受けることで、授業改善を行い、児童の表現力向上を図る。	①学校評価アンケート(児童)の学習の理解に関する項目で「よくあてはまる」の割合が75%以上となったか。(昨年度68.6%) ②調査結果の分析や学力向上カウンセリング研修を踏まえ、授業改善の視点、手立てを設定する事ができたか。	①授業においてタブレット端末の活用を推進し、より効果的な活用方法について検討する時間を設けた。スタディサプリを活用することで、データとして児童の学習の深度を確認し、授業の工夫・改善に生かすことができた。学校評価アンケートでは、「よくあてはまる」の割合が64.8%となり、昨年度を下回る結果となった。肯定的な評価は、93.9%と昨年度(93.2%)を上回った。 ②学力向上カウンセリング研修を2回実施した(8月:大宮西中学校との夏季合同研修会、10月:大宮西小にて)。研修会とおして、児童の実態の把握と、授業改善の視点を共有した。	B	○タブレット端末の有効活用を含めた授業方法の工夫・改善を図る。 ○スクールダッシュボードの活用により児童の学習のつまづきを早期発見し、その子に応じた指導を実践し、「個別最適な学び」につなげる授業改善を行う。 ○本校の児童の実態から見える学習への課題解決に向けた授業実践を行う。	学校運営協議会からの意見・要望・評価等 実施日令和6年2月15日 学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのは楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は95.2%であった。 ○昨年度のいじめ認知件数12件、不登校児童15名であった。学校評価アンケート(児童)の教育相談に関わる項目で肯定的な回答をした児童の割合は、75.2%であった。 ○通学路の危険箇所の要望を提出するための調査を実施した。 (課題) ○悩みを打ち明けられていない児童がいる現状より、話せる雰囲気・環境づくり(教職員のカウンセリングマインドの向上)と家庭との連携を図り、組織的な支援・相談体制づくりをより構築していくことが課題である。 ○通学路について、保護者・地域との連携のもと、警察等への要望を継続するとともに、児童への安全指導を徹底し、自ら危険を予測、回避する力をはぐくむことが課題である。	・児童に寄り添う生徒指導・教育相談体制の充実 ・交通安全に対して主体的に取り組むことができる児童の育成に向けた交通安全教育の推進	①組織的な教育相談体制を充実させ、アンケート・面談を実施し、児童の実態を把握する。 ②教職員のカウンセリングマインドの向上を図るための研修会を実施する。	①学校評価アンケート(児童)の関連する項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。(昨年度75.2%) ②学校評価アンケート(教職員)の関連する項目の「よくあてはまる」の割合が70%以上となったか。(昨年度60%)	①学校評価アンケートの結果は、73.3%と昨年度を下回った。保護者との面談の実施により、保護者と共に児童理解を深め、形態変更や通級指導教室の利用数が、昨年より増えた(形態変更R4:3人→R5:7人、通級指導教室R4:2人→R5:4人)。関係機関につなげることができた。 ②学校評価アンケートの結果は、目標には届かなかったが、昨年度同じ60%であった。カウンセリングや児童・保護者対応についての教職員研修を夏季休業中に1回、各学期に2回以上実施した。	A	○スクールダッシュボードの活用による、児童のSOSを早期に発見し、生徒指導・教育相談に生かす。 ○児童・保護者に寄り添う教職員を目指し、校内研修・資質向上を図るための情報共有を実施する。 ○特別支援コーディネーターを中心とした校内体制の構築とSC、SSW等の積極的な活用による相談体制づくりを行う。	・児童がトラブル等、相談しやすい環境になってほしい。 ・保護者のアンケートについて、具体的な意見を記載してもらい情報を集めたほうがよいのではないかと。 ・「子ども安全会議」を班長だけでなく、副班長、交通指導員さんも参加できるような会にしたいのではないかと。 ・安全マップの危険箇所等については、各学区をよく知っている方々も加わり、協力して通学路の見直しを行ってほしい。 ・子ども自身の目で安全について考えることが大事である。 ・見守りについては、有償ボランティアを募ってはどうか。 ・交通安全については危険箇所を洗い出しそれを解消するような働きかけが必要。	
3	(現状) ○昨年度、学校運営協議会での熟議を重ね、学校、家庭、地域の3者による自然園の環境整備、通学路の安全確保の2つについては継続することが決まっている。 (課題) ○3者がそれぞれに取り組むこと、連携を図って取り組むことについて、具体的な方策を熟議し、形にしていく必要がある。取組については、情報発信を行い、周知していきたい。	・環境整備・安全教育を中心とした3者協働活動の推進 ・開かれた学校づくりを目指す情報発信とポストコロナの学校運営の推進	①「潤い自然園」の整備を計画的に進め、SDGsと関連付け、児童の探求的な学びを実践できるようにする。 ②通学路の課題に向けたプランに基づき、具体的な方法を定め、学校と保護者、地域と協働した取組を始める。	①「潤い自然園」が、日常的に授業で活用できる環境となったか。 ②学校、家庭、地域が協働し、通学路の課題解決に向けた取組を実施する事ができたか。	①6年生の総合的な学習の時間への位置付けができ、児童による環境整備が継続して取り組める計画を構築することができた。「潤い自然園」を利用しやすくするための道の整備にも着工した。 ②通学路の変更に向けた確認作業・周知を行い、課題の解決につなげることができた。	A	○活用しやすい「潤い自然園」に向けた予算の確保を行う。道の整備については拡張をしていく。 ○学校全体として「潤い自然園」を利用する活動を増やし、自然愛護の心、環境に対する意識をもつ児童の育成を図る。 ○保護者・地域の方からの児童の登下校時の歩き方や地域の交通事情の様子をうかがう情報交換会やアンケートを実施する。	・教職員の自己評価・自己肯定感をあげる工夫を考えていくことが大事である。 ・先生方が、職員同士コミュニケーションをとる時間と場所の確保をしてほしい。先生方の資質向上・心のゆとりにつなげてほしい。 ・HPが更新された際には、通知があるとわかりやすい。 ・HPの内容の検討、必要な情報の精選。取り上げてほしい内容を保護者にアンケートしてもいいのではないかと。 ・青少年育成会を小学校単位に改編するように働きかけた方がよい。	
4	(現状) ○授業におけるICT活用は進んだが、個人差がある。 ○高学年での教科担任制の実施は、担当教科において、より深い教材研究を行うことができていく。 (課題) ○ICTの活用について、教員間の技能、活用能力の差をなくし、全ての教員が学び続けられる環境づくりが求められる。 ○教科担任制の課題として、自分が担当しない教科について、教材研究をしたり、授業を見合い、授業の質の向上を目指したりすることについて課題がある。	・ICT活用研修と指導法向上研修の実施	①タブレット端末を活用した授業を実践する。エバンジェリストによる研修会・情報伝達を毎月実施する。 ②各教科・領域の授業実践、資料のデータ化を進め、授業・研修に生かせるようにする。	①全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。 ②学校評価アンケート(教職員)の関連する項目の「よくあてはまる」の割合が35%以上となったか。(昨年度26.7%)	①エバンジェリストによる研修会を毎月実施した。全学年にてICTを活用した授業を実施した。学校評価アンケート(児童)のタブレット活用についての結果は、昨年同様94%であった。 ②学校評価アンケートの結果は、20%と昨年度を下回った。しかし、肯定的な評価は100%となった。	B	○ICT活用研修の継続実施と、学校内外の授業での活用例の紹介を行い、教員の資質向上を図る。 ○研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励を実施する。 ○タブレット端末の活用が有効な単元等の洗い出しを継続し、年間指導計画に位置付ける。	・なんでもタブレットで教えるのではなく、効果を予測しながら、取捨選択できるようになることが重要。	